

令和4年6月2日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題 出雲市佐田地域でスマート農業の実証活動始まる

(ダイジェスト)

去る5月11日、出雲市役所佐田行政センターにおいて、佐田地域水田スマート農業実証協議会（会長：大谷健二。（農）橋波アグリサンシャイン代表理事）が設立され、中山間地域での水稲栽培の省力化をめざしたスマート農業技術の実証に取り組むことが決定された。

5月20日には水位センサーと給水ゲート、5月30日には「抑草ロボット」の設置が行われ、実証活動がスタートした。

去る5月11日、出雲市役所佐田行政センターにおいて、佐田地域水田スマート農業実証協議会が設立され、中山間地域での水稲栽培の省力化をめざしたスマート農業技術の実証に取り組むことが決定されました。

この協議会は、担い手による農地維持が厳しくなる中、スマート農業による農作業省力化技術等の実証を行い、中山間地域の農業・農村の維持に寄与することを目的に設立されました。構成員のうち農業者は農事組合法人橋波アグリサンシャインと中山間地域等直接支払の吉野集落協定であり、その他、JAや市等の関係機関が参加しています。

実証する技術は、水管理の省力化（水位センサー＋給水ゲート）、防除（ドローン）、有機水稲栽培における雑草対策技術（自動抑草ロボット）であり、5月20日に水位センサー等、5月30日に抑草ロボットの設置が行われました。

水位センサーと給水ゲートは、(株)farmoが提供するシステムを導入しており、製品価格が安く、通信費を運営会社が負担する等、低コストで導入できることが特徴です。抑草ロボット（アイガモロボット）は、井関農機(株)が有機米デザイン(株)と共同開発中の機械であり、スクレーパーで泥をかき混ぜて水を濁らせ、光を遮ることによって雑草の発生を抑制するものです。

当農業部も協議会に参加しており、設置後の状況を確認するとともに、省力効果の検証を支援していきたいと考えています。

